

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和7年9月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	12	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	4		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	
事業所名	グループホーム丸の内はとぼっぼ
(ユニット名)	青鳩
記入者(管理者)	
氏 名	松本 宗久
自己評価作成日	R7 年 8 月 20 日

【事業所理念】※事業所記入 自分らしく暮らしたい	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 R7年2月1日よりグループホーム丸の内はとぼっぽは(有)ケアサポートゆずりはへ経営母体が変更となりました。それに伴ってグループホームのスタッフは大幅に変更となりましたが、新規スタッフでこれまでの利用者様の生活習慣を出来る限り変えることなく尊重して行くというスタイルで活動しております。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 入居期間が10年を超えるような利用者もあり、管理者は、「利用者それぞれのホームでの慣れた暮らし方を変えることなく支えていきたい」と話していた。 希望に沿った外出ができるよう支援に努力をしている。以前からひとりで散歩をしている人については、名札を付けたり、スマートフォンを持参してもらったりして様子をみながら散歩を続けられるよう支援している。日中散歩をする人には、真夏は危険な暑さでもあり、時間を変更したり、職員が食材の買い物に行く時に誘ったりして外に出る機会をつくっている。丸山公園や保田公園に花見に出かけたり、道の駅や手島島祭りに出かけたりして、月に一回は、外出する取り組みをすすめている。
-----------------------------	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】
◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	ご家族様や以前のスタッフ、利用者様と話し合いながら把握に努めております	◎		△	管理者が、利用者との日々のかかわりの中で聞いた希望等や職員から聞いた情報をもとにして把握し、介護計画1表の本人の意向に記入している。 さらに、本人の暮らし方への思いを整理し、共有するための記録に工夫してほしい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	可能な限り利用者様の視点を大事にし、スタッフも日々努めています。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	はとぼっぽにはご家族様以外にもご友人の方が来訪される事が、そういった場合にお話を伺う事があります				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	申し送りノートなどを活用して、場合によってはSNSを活用して共有に努めております。が、十分でないと感じる事もあります				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	可能な限り利用者様の言葉を優先し、スタッフの決めつけにならない様留意しております。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	引継ぎに際し、前スタッフ様や家族様と入念な情報交換や実習を行い、利用者様に不便のないよう努めております			○	令和7年2月に経営母体の変更があり、その後は新たな利用者はいないため、現在は、以前の法人から引き継いだ情報(私の生活シートや私の暮らし方シート)をもとに把握に取り組んでいる。 入居期間が10年を超えるような利用者もあり、管理者は、「利用者それぞれのホームでの慣れた暮らし方を変えることなく支えていきたい」と話していた。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活から把握できるよう努めております				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	△	電子カルテを使い以前のように生活の全体像を把握できるように努めておりますが、まだ昨日の把握が十分でないと感じる事があります。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	ミーティングなどで話し合いご本人様の視点で検討するように努めておりますが、まだ十分ではありません			△	管理者が利用者、家族、職員に聞き取りを行い検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	△	ミーティングやそれとは別に時間をとるなどして課題の把握に努めております				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	ご本人様の思いを反映させた内容に出来るように努めておりますが十分ではありません				管理者が利用者、家族、職員に聞き取りを行い介護計画を作成している。それぞれの意見やアイデアを反映して作成するまでには至っていない。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	重度の方でも何らかの生活場面で活躍できるよう配慮を考えております	○		△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	ミーティングやご家族様来訪時に得られた情報を生かせるように努めております				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	これまでの生活の継続が出来るよう努めております				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	×	管理者がケアプランを作成し、共有化に努めていますが十分な体制が整っていません			×	管理者が新しく計画を作成した際には、職員に、計画書をカードデックスに挟んだことを伝えているようだが、職員が計画内容を確認したかは不確かである。 タブレット端末の介護記録に記録するようになっていたが、現在、使用方法を探っている途中で記録はできていない現状にある。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	×	以前は24時間シートなどを活用していたのですがカルテの電子化の導入に際して、新しい体制を考えていますがまだ十分な体制が整っていません			×	

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	△	期間に応じて見直しをしていく予定にあります			×	管理者が期間を管理しているが、時に見直し時期が遅れるようなことがある。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月一回のミーティングで現状の把握に努めております			×	ミーティングの際に、気になる利用者について話し合うことがあるが、ミーティングが開けない月もある。また、介護計画の見直しにつなげていくような話し合いや取り組みは行っていない。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	入院などご本人様の間で大きな状態変化があった場合には計画の見直しを行っていく予定です			△	身体状態の変化があれば見直すことになっている。この一年間では事例はないようだ。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	月一回、また緊急性がある場合と、必要に応じてSNSを使ったオンラインミーティングも開催しています			△	毎月、3日の18時から2時間程度ミーティングを行うことになっているが、現在は、行えたり行えなかったりする現状にある。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	管理者が主導していますがスタッフ全員が自由に意見を出してくれる体制にあります				経営母体の変更により、職員が入れ替わったため、現在も業務やしくみ作り等に関して決めることが多くあるようだ。職員で意識を合わせて取り組んでいけるように、ミーティングの機会を活かしてほしい。
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	基本は決まった日時の夜に、場合によっては変更して実施しております			△	これまでに1回ではあるが、職員の参加が難しい時にオンラインミーティングを行ったことがある。議事録を作成しているが、全職員が内容を共有できているかどうかの確認はしていない。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	△	朝や夕方のスタッフの入れ替わり時には必ずスタッフ間で簡単な申し送りをしております	○		△	家族からの伝達事項は、申し送りノートに記入して伝達している。確認した職員はサインすることになっているが、サインがあったりなかったりする。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日々の介護の場でスタッフ主導にならない様、声掛けをするように心がけています				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	可能な限り選択できる場面や声掛けを用意するようにしております			○	おやつを複数見せて選んでもらうような場面をつくっている。活動への参加についても必ず聞いて本人に決めてもらうようにしている。
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	出来る限りその人のペースに合わせておりますが食事や入浴などの時間はスタッフの決め事の色が強いと考えています				
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	ご本人様が喜びそうな言葉など日々スタッフ間で気付きを話し合うようにしています			○	8月に納涼祭を行った際には、焼きそばやフライドポテトなどを手づくりして、祭りの屋台の雰囲気や食事を楽しんだ。職員は、紙芝居をしたり、行事の折に仮装をしたりして「利用者の大笑いする」ような場面づくりに努力をしている。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	場合によっては表情や身振り手振りなどを使ってコミュニケーションをとる場合もあります				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	スタッフ全員で十分に配慮した対応を意識して行動しています	◎	○	△	経営母体の変更後、ミーティング時に法人代表者から言葉かけや対応について話があったようだが、職員が、「人権」や「尊厳」とは何かを学ぶような機会は特に設けていない。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	異性の対応や羞恥心に配慮した対応を心がけております				利用者からの同性介助の希望に応じている。
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	必ずノック、反応を確認を気をつけております			○	管理者は、「まずは、利用者との信頼関係をつくっていくことが大事」と話していた。調査訪問日は、一日を通じて職員が利用者とは話さず会話を多くみられた。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し、実施しております				管理者は、利用者に許可を得てから入室していた。
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に向けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	食事づくりや洗濯、掃除に自分の役割を持っている方がおられ、スタッフは必ずお礼を伝えるように努めております				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等。)	○	トラブルにならない配慮や認知症の症状が進んでおられる方が孤立しないよう配慮している。			○	居間のテーブルは、3人くらいずつで使用する丸テーブルを設置しており、他利用者との距離が近くなるため、座席の配置に気を配っている。夫婦で入居している人は同じテーブルで食事をしていた。世話が上手な利用者が隣で世話をしてくれることで安心して過ごせているような人はいない。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者様がただ孤立しないように多様な場面で活躍出来たりスタッフがトラブルの仲裁に気をつけたりしている				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	日常的に家族以外のご友人が来訪されており、利用者様の過去の話などして下さることがあります。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	昔からのご友人との関係が途絶えないよう、食事会などを予定して下さっている場合は極力協力するよう心掛けている				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	スタッフの人数が少ない場合でも可能な限り利用者様の外出への要望に応えられるよう対応している	○	△	◎	希望に沿った外出ができるよう支援に努力をしている。以前からひとりで散歩をしている人については、名札を付けたリ、スマートフォンを持参してもらったりして様子をみながら散歩を続けられるよう支援している。日中散歩をする人には、真夏は危険な暑さであり、時間を変更したり、職員が食材の買い物に行く時に誘ったりして外に出る機会をつくっている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	家族様や近隣の学校の生徒さんが協力して下さることがあります。				丸山公園や保田公園に花見に出かけたり、道の駅や宇和島祭りに出かけたリして、月に一回は、外出する取り組みをすすめている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	高齢者介護に熟練したスタッフがおり、利用者様の状態1つへの対応を日常的に話し合っている				率先して家事を行うような利用者が多く、職員も利用者が興味を持っているような様子があれば、お願いをして一緒に行うようにしている。 法人代表者がつくったバターゴルフが居間にあった。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	グループホームの生活リハビリ的な事のほかに少ないスタッフなりに体を動かす体操などを日常的に行っている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来る事は手伝ってもらったり、必ずお礼を伝える	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	これまでの習慣やこれまで行っていない事に注目して出来る事案しめる事が出来るよう心掛けている				「好きな時に飲みに行きたい」人は、友人と飲みに行くことを続けられるよう支援している。夜は21時くらいには戻ってくるようルールなどをつくっている。 同い年の6～7名で定期的に外食する利用者があり、友人とのやりとりや送迎を支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	機会は少ないですが地域行事や外に出られる活動を作っております	○	○	◎	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者様と着替えなどを一緒に考えています				利用者は季節に合った清潔な服装で過ごしていたが、中には、寝癖がそのままだったりするような利用者が見受けられた。 衣類やスキンケア用品は家族が用意している。ヘアカットは、訪問カットを利用しているが、中には、家族がカットしたり、職員が行きつけの美容室まで送迎したりするケースがある。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	起床時にはご本人にくしをお渡しして直してもらっています。自身で気をつけなくてもされる方もおられます				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	提案と一緒に考えるということを日常的に行っている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	スタッフが季節に合わせて行っている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	必要時は整髪や着替えなどに気をつけています	◎	◎	△	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	希望のある方はこれまでの美容室を、そうでない方は訪問美容室をお願いしています				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	エプロンなどこれまでのスタイルなどには気をつけています			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	理解しているが、食すつくりに関してはもう少し利用者様と関わっていける余地があると考えています				おかずのみ、調理済みおかず(湯煎して盛り付ける)を利用しているが、現在、1階ユニットは食材へのこだわりのある利用者があり、職員が食材の買い出しをしたり、八百屋の配達や魚屋の行商を利用したりして、食事を手づくりしている。魚屋が来る時には、こだわりのある利用者と選ぶようにしている。本人が「わたしが煮つけにしよう」と言って調理をするようだ。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	可能な限り一緒にに行き、スタッフが十分にいる場合には一緒に買い物に行く事もあります			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	日常的に片づけなどをしてくださる方が多くおられます				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	新しいオープンに際して以前のスタッフから情報収集を行っています				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	可能な限り行っています			◎	調理済みおかずを利用しているユニットも、主食や汁物をアレンジしたりしている。手づくりするユニットは、旬の新鮮な食材を使用して調理をしている。
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	現状は通常食、大きさに気をつけるなどしています				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	これまで使っていたものを使用しています			◎	入居時に家族が用意した食器や箸を使用している。壊れたら、事業所で個人用のものを用意している。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事と一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事を共にすることの重要性をスタッフに話し、運出スタッフは見守りをしながら一緒に食事をしてもらっています			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事作りの工程を見てもらったり参加してもらうなどの工夫をしています	○		◎	居間から台所仕事をされる様子がよく見えて調理のにおいがする。利用者が見える場所で盛り付け等をしており、食事前に味見をする利用者もいるようだ。病状により、食事を負担に感じる状態の人への支援は、おしゃべりが好きという点を活かして、違うことに気を逸らせながら、一口でも多く食べられるよう支援している。 指が思うように動かないような利用者には、大きめのスプーンを用意したり、ご飯を小さめのおにぎりにしたりしていた。 さらに、食事時の姿勢等については、食べやすく安全な姿勢になっているかどうか点検してみよう。また、夕食時間が16時半からとなっているが、適切な時間かどうか話し合ってみよう。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	×	摂取カロリーに関しては十分ではありませんが水分に関しては電子カルテへの記入で総量を把握するようにしています				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量の少ない方は往診医と相談して栄養食の採用をするなどしています				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士がいないため十分ではありませんが、食事のバランスなどを日常的に話し合っています			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	新鮮な食材を使用しています				職員間で話し合いながら食事を手づくりしている。ミーティング時に食事形態について話し合った事例がある。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	△	理解している				口腔ケア時の目視にとどまっている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	十分ではないが必要に応じて歯科の受診なども行っています			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	十分に行えていない				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	必要な時には支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	必要に応じて歯科の受診を検討している			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きていく意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解しており、ミーティングなどの場で可能な限り今の排泄物品が適当か検討している				日々のケアの中で気づきがあれば話し合い、見直し、支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	自立している利用者様もおられるが可能な限り、排泄の感覚などに気をつけている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄の間隔など気をつけてスタッフ間で共有している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	現在の排泄介助や排泄物品が適切であるか検討している。現在排泄委員会も作っている	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	下剤だけに頼らず水分量などにも日常的に気をつけている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	声掛けに気をつけて利用者様によっては非言語のサインなどないかも気をつけている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ミーティング等で検討している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	可能な限り通常の下着も使って頂いている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取に気をつけ、可能な限り薬に頼らない事も気をつけている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	スタッフの都合とこれまでの習慣を重視しています	◎		○	個々に曜日を決め、週3回の入浴を支援している。入浴剤を使用し、浴槽で温まれるよう支援している。本人が入浴に気が乗らないような時には無理強いはいないようにしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	自立している方は安全に配慮して長湯になり過ぎない声掛けをそうでない方も可能な限り入浴をゆっくりできるように気をつけています				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る部分はして頂いています				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	ご本人が納得できる声掛けをスタッフが考えて対応しています				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前のバイタル測定、状態に総じて再測定してから入浴してもらっています				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	おおむね把握している				以前から本人の希望で入眠導入剤を服用している利用者が約半数おり、主治医と相談しながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	ご本人のペースに合わせて介助しているが十分でない				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	必要に応じて往診医師に相談したりより良い対応がないか検討しています			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	状態に応じて休息を促している				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	自立されている方の中には自身で携帯を使用されている方もおられます。外部からの連絡に関してはすぐに取り次ぐように対応しています				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	必要時にはスタッフが仲介している				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	必要時にはスタッフが仲介して対応できるよう配慮している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご本人様への直接的な手紙はお渡しし、お返事が出来るよう配慮している				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	契約時に電話等の配慮についてはお話ししております				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	管理者が管理し、必要時には使って頂けるよう配慮している				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物先への理解や協力は得られていないが、外出できるような配慮は行っている				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	場合によってはお金を所持して頂き使ってもらっているが、ほとんどの利用者様に関してはこちら側で管理しております				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	再契約の際に話し合って理解を得ている				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	使用したお金に関して明確なルールがあり利用料と共に家族様にお話ししている				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	その都度利用者様の要望に応じて、出来る限り対応できるよう考えている	◎		◎	受診支援を行っている。 友人との会食に出かける人の送迎を行っている。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	以前と変わらない外観を維持できるように気をつけている	◎	○	○	駐車場は広く、玄関まではスロープを付けている。 玄関周りは掃除が行き届いていた。玄関前の花壇には、ブーゲンビリアが咲いていた。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気を持っている	○	◎	○	居間には、壁掛けの大きいテレビを付けており、丸テーブルを複数配置している。 居間の一角にある畳の間や2階ユニットを出た踊り場は、やや物置状態になっているのが気になった。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	清掃時などに居室の状態匂いなどにも配慮、消臭剤なども準備している			○	掃除が行き届き、気になる音、光、臭いは感じなかった。昼食時はテレビを消して食べていた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	共用空間とキッチンが近くにあり、利用者様がそういった場面に入りやすい工夫が出来ている			○	1階ユニットの居間の窓からは、庭の植木の緑が見える。壁には、掲示板を複数設けており、季節の飾り付けをしていた。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	座席が決まっており、仲の良いグループが座れるよう配置の工夫がされている				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に使い慣れた家具や持ち物を持ち込んでいただくよう声をかけている	◎		○	自宅からタンス、鏡台、テレビを持ち込んでいる人がいる。 若い頃の写真を飾ったり、ベッドの枕元に塗り薬や日用品を置いているところが見られた。仏壇を持ち込んでいる人がおり、利用者の代わりに職員がお茶湯をしているケースがある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	自分で出来る事の支援や安全の配慮を行っている。多くの利用者様が掃除や洗い物に参加してもらっている			○	経営母体の変更前と同じ表示を採用している。居室の入り口には、利用者によっては大きな文字で苗字を表示していた。 トイレの表示は、「トイレ」や「便所」、カラーのピクトグラムを付けていた。
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	必要な物は置いているが馴染みのものであるかは分からない				さらに、室内には注意事項の貼り紙が複数みられるが、利用者の現状に即しているかどうかを点検してほしい。
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	理解している。ミーティング等でも話を挙げている	◎	◎	○	日中、玄関やユニット入り口に鍵をかけていない。 鍵をかけることの弊害について理解を深めるような機会は特にには持っていない。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	利用契約の際に再度お話ししている				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	スタッフに見やすいカルテなど十分な整備が出来ていない				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日誌や送りノートに記載している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	往診に来て頂いている松浦内科医院に利用者様の状態を報告、相談に乗って頂いている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	往診ドクターの変更や緊急時の利用医療機関などの理解を得られている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	利用再契約の際に往診ドクターの変更についてご家族様にご納得いただいている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診時や往診で異常があった場合はご家族様に連絡する体制が出来ている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際に、再入所に際して出来る限り配慮できるように説明を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	早期の退院が完了できるよう、病院からの連絡があった場合には、退院に応じられるよう相談に応じている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	母体組織に訪問看護があり必要に応じて訪問看護が利用可能であること、体調不良時などは協力医療機関に相談できる旨をご家族様に説明している				
		b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	現在は行っていないが、看取りが必要な場合など場合にそういったことを相談できる機関が会社内に存在する				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	往診前に協力医療機関へ状態報告を行っている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	新しい薬の追加時などに新しい薬情から家族連絡など行っている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	一回ごとに個別に分けたカプセルを使用し薬の間違いを防ぐような工夫がされている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の追加時に一日の状態観察など気をつけるようスタッフ間で呼びかけを行っている				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時の重要事項説明書に終末期などについての説明を行っている				終営母体の変更時に全家族に契約事項とともに看取りの指針について説明を行った。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	協力して頂いている協力医療機関が状態に応じてそういった対応を相談してくださっている	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者含め十分な力量があると思っていないが、見極めに尽力している				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	利用再契約時にそういったお話の説明をしている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	現状は往診のドクターに相談しているのみであるが、状況によってそういった対応が出来るよう整備を進めている最中である				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	利用者様の状態に変化があった場合にはマメに家族連絡を行っている。また、その際にグループホームが終の棲家であることをお伝えしている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	同一法人内で施設内研修等が行われている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	日常的な手指消毒など行っている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	周辺機関の法人内施設から情報収集に取り組んでいる				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	日常的にスタッフが行っており利用者様にも気をつけて頂いている				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	連絡時にご利用者様の様子や明るく過ごされている姿などお伝えするようにしている				特には、取り組んでいない。 1日1行、利用者個別に暮らしの様子を手書きして、1か月毎、家族に送付している。 今後は、家族の知りたいことや不安ごと等も聞き取り、報告できるよう取り組みを工夫してみてほしい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	外出や面会を積極的に受け入れている	○		×	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らししぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便りや家族連絡時に状態報告を行っている	◎		○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者様の認知症の状態を適切に伝えより良い対応を検討中であるとお伝えしている				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	施設上の問題などは十分な報告は出来ていない	△		△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	起こりうるリスクをお伝えしたうえで、どういった対応をすることで安全であるかをお伝えしている				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族様の相談には可能な限り応じている。施設への宿泊などはまだ行っていない			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入所時、利用契約時に契約書、重要事項説明書と共にご説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	上記と共に管理者の説明で不足があった場合、オーナーより追加の説明が出来る体制がある				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を通じて施設の事を話している。管理者を含め当施設の理解が十分でない部分は地域の方に教えて頂くこともある		◎		回覧板で地域の情報を得て、祭り等に参加している。 自治会の総会には、管理者が参加している。 管理者は、「地域と協力し合っていけるようなグループホームを目指していきたい」と話していた。運営推進会議等を活かして地域とのつながりを広げていってほしい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	回覧板、自治会総会などへ参加している。		○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の魚屋さん、八百屋さん、自治会の方が以前より気軽に立ち寄って下さっている				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	◎	以前から付き合いのあるご友人型など気軽に来訪して下さっている				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	ご家族様、ご友人以外の方が来訪されることは少ない				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	敬老会や地域の清掃などの声掛けを頂いている				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	十分な働きかけは行えていない				
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	まだ家族はお招きしていません。利用者様、地域の方、同一業者の方をお招きしています	○		△	利用者、自治会長、民生委員、市内の2グループホームの参加を得て、2階ユニットの居間で1時間程度会議を行っている。 家族には案内はしていない。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	報告を行っていますが、なかなかうまく行っていないように感じます。時間を持て余す事が多い		◎	△	利用者状況、活動状況、主な出来事、事故状況、職員の異動、活動予定等について報告を行っている。 管理者が会議の進め方に困っていると、民生委員の方から「みんなに一言ずつ話してもらったらどうか」と提案があり採り入れた。
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	毎回のテーマを考えようとしていますが十分に行えていません		◎		

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	管理者、スタッフ共に理念への理解は十分でないと思っていますが、今後を通して皆で勉強していきたいと思っています				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	リビングに掲げております	△	△		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内では出来ていますが、当施設ではまだ整備の最中です				法人代表者は、職員数が不足している時には、夜勤に入るなどして協力している。 1時間の休憩時間を確保している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ミーティングの機械などを利用して研修が出来る体制を考えています。現在は十分な整備が出来ていません				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	法人代表は全体の仕事に携わり常にスタッフや利用者様の第一を考えて活動しています				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	週に一回は代表が訪問され場合によっては代表自ら同業者との交流に協力してくれています				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	スタッフ不足があり、場合によっては代表者自ら現場に出てスタッフの話を聞いて下さっています	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	理解し、施設内で研修が出来るよう整備している最中です			△	職員それぞれが気を付けているが、令和7年2月の経営母体の変更時から現在までに、高齢者虐待について学ぶ機会や、虐待や不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順について理解を深めるような機会を持つていない。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	管理者が介護にかかわりスタッフと共に何が良い介護につながるか日々模索しています				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	スタッフ不足が深刻であり、十分でないかもしれないが、スタッフへの感謝を忘れないよう声をかけています				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	理解し、ミーティング等で日常的に話し合っている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ミーティングで法人代表から研修などを受けて学んでいる				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入所時、再契約時などにご家族様に説明しご理解を得ている				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	×	以前のパンフレットしかなく十分な学習会が出来ていない				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	十分な連携体制は取れていない				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	旧体制でのマニュアルはあるが、新しいマニュアルが必要であると考えている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行えていない。必要時にスタッフ間で器具の使用方法にや処置の仕方などをSNSや連絡ノートで伝えるようにしている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	事故、ヒヤリハット発生時には報告書を作成してもらい、ミーティングで検討するようにしている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	△	現在は十分ではないが「リスク委員会を置くことで定期的な事故対策の検討が出来るよう計画している				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	以前のものはあるが新しいものは作成できていない				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	必要時は市町村に報告するようにしている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	管理者が対応するようにしている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	苦情、相談があった場合には管理者が対応するようにしている	○		△	運営推進会議に参加する利用者は運営に関する意見や要望を伝える機会がある。利用者から湯煎をおかずについての意見があり、ユニットによっては、食事を手づくりにして要望に沿っている。 家族については、機会をつくっていない。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	ご相談があった場合などは管理者が対応したり、適切な機関へつなぎが出来るよう助言を心がけている				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	法人代表が定期的に現場に赴いて対応して下さっている				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	可能な限り相談に乗れるよう心掛けている			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	新しい体制になってから行えていない。今後検討していく予定である				日々の中やミーティング時に聴いている。 経営母体の変更に伴い、新たに、事業所理念をつつてはどうか。ホームが目指すグループホームの在り方について、皆で話し合って作り上げてほしい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	今後行っていく予定である				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	まだ行えていない	△	△	評価困難	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	今後実施していく予定である				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	現在のマニュアルが新しい体制の前の物であり、十分な共有出来ていないため、近く新しいものを作成していく予定です				令和7年2月から現在までの間では避難訓練は実施していない。また、地域等と協力・支援体制を確保するような取り組みは行っていない。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	×	新しい体制から十分な訓練が行えていない				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	近隣の消防署が点検に訪れて下さっている				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議などで近隣の方にこれまでのことなどを伺っています	△	○	×	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	新しい体制になってから十分には行えていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	十分に地域の拠点としての開放なども出来ていません				特には、取り組んでいない。 特には、取り組んでいない。 10月に、中学生の職場体験を受け入れる予定があり、その際には、説明資料を作成して認知症やグループホームの理解につなげたいと話していた。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	家族様や関係者様から相談があった場合には応じるようにしております		○	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	地域の方が集まる場としての開放は出来ていません				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地域のかたのボランティアや職場体験の実習の受け入れを行っています				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	地域イベントの参加は心がけていますが連絡体制は十分ではありません			×	